

つぎのような症状が2週間以上にわたって続いたり、なかなか治らない、ひどくなるなどの場合はがんを疑ってみましょう。もちろんそれ以外の原因でこれらの症状が出る場合もありますが、定期検診を受けていたとしても、素人判断せず、専門医の診察を受けましょう。

●胃がん — 空腹時の不快感、食欲不振など

胃がんは進行の程度にかかわらず、症状が全くない場合もあります。逆に早い段階から胃痛、胸やけ、黒い便がみられることもあります。空腹時の胃部の不快感があったらすぐに診察を受けましょう。食欲不振、体重減少、貧血、食べたものがつかえた感じがする、胃がもたれる、といった症状は胃炎や胃潰瘍などにもみられますが、症状が続くときには早めに受診することが大切です。



●肺がん — なかなか治らない咳や胸の痛みなど

なかなか治らない咳や胸の痛み、呼吸するとゼーゼー音が出る、息切れ、痰に血が混じる、声がかすれる、顔や首がむくむ。こうした症状があるときは要注意です。

●乳がん — しこりがある、赤くはれるなど

乳房を自分で注意して触ると、しこりに気づくことがあります。えくぼのようなくぼみがある、皮膚が赤くはれる。しこりははっきりわからないが、皮膚がオレンジの皮のように赤味を帯びたり、痛みや熱感があるといった場合。そのほかにも腕がむくんできた、しびれがあるといったときも、注意しましょう。

●子宮頸がん — 出血、月経が長引くなど

初期では全く症状がないのが普通です。月経でない時の出血、月経の量が増えたり長引いたりする、性交時の出血、普段と違うおりものがあるなどの時は、がんが少し進行していることも考えられます。

●大腸がん — 下痢と便秘の繰り返しなど

良性の腫瘍でもがんと似た症状が出ますが、肛門の痛みがないのに血便が出る、便が細くなったり、残った感じがする、腹がはったり、下痢と便秘を繰り返すなど、排便に関する症状があるときは注意しましょう。

